

# バスケットで深まる「絆」が励みに

黒沢尻北高校2年バスケットボール部

## 佐藤 諒さん



『十日ぶりに練習に戻った私を、チームの仲間が静かに迎えてくれた。言葉はなくても回してくれるパスが「一人じゃないぞ。」「俺たちがついてるぞ。」と言ってくれている気がした。仲間との「絆」がパスの軌跡に重なった。』  
バスケットボール部で1年生から主力選手として活躍する佐藤さんの作文「震災を越えて―未来へのスリーポイントシュート」の一節。この作品が、財団法人全国高等学校体育連盟(全国高体連)主催の「甦れ日本!高校生アスリート作文コンクール」で、190点の応募の中から最優秀となる三作品の一つ、全国高体連会長賞に輝きました。  
この作文コンクールは、東日本大震災の被災地に在住または所在する高校に通学し、困難を乗り越えて運動部活動に参加する高校生を対象に募集したものです。

佐藤さんは、大震災当日、仕事先で津波に遭い亡くなった父親のことや、代わって背負うこととなった責任の重さ、その重圧をはねのけ父親が応援してくれたバスケットボールに打ち込む決意をした様子、将来の夢などを書きました。  
受賞の知らせに「本当に自分か?」と半信半疑でしたが、「励ましてくれたみんなも一緒に頑張って喜んでくれてうれしかった」「入賞者には奨学金

が支給されるので、母へのいい恩返しになる」と素直に喜びを話してくれました。  
将来は教師を希望し、大震災で身をもって体験し学んだことを伝えたいとのこと。スリーポイントシュートがリングに触れずゴールネットをくぐり抜ける音のように、信じた言葉が相手の胸の中に吸い込まれるときに聴くはずである音が『私の仕事を確かめる音』と作文を結んでいます。

## 博物館だ"より

### 北上の武将・和賀氏②

#### 岩崎城落城



岩崎城の戦い(ジオラマ)

今から約410年前、和賀郡を追放された和賀氏は南部氏家臣・北松齋が守る花巻の鳥谷ヶ崎城を奇襲し、その後岩崎城に立てこもります。しかし、岩崎城は徳川家康の後ろ盾をもつ南部軍に攻められ落城し、和賀氏が再び和賀郡の領主になることはできませんでした。

和賀一族の多くは命を落としましたが、中には新しい時代を生き抜いた者たちもいました。彼らが和賀氏の歴史を現在まで伝えていきます。

博物館・みちのく民俗村 立花14-59 ☎64-1756

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：12月1日～3月31日の期間は月曜休館(祝日などの場合は翌日)、12月28日～1月4日

※臨時休館日 9月26日(月)

入館料：一般500円、高校生240円、小中学生170円  
(20人以上で団体料金となります)



中央図書館 ☎ 63-3359 江釣子図書館 ☎ 77-2215 和賀図書館 ☎ 72-2322  
 中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

## 《1月の新着本から》

- ▼ クラウド「超」仕事法 野口 悠紀雄  
 一般書 聯合艦隊司令長官 山本五十六 半藤 一利  
 男の離婚読本 飯野 たから  
 iPS細胞 ニュートンプレス  
 塩麴&甘酒で作る、麴の美味しいスイーツレシピ 小紺 有花
- ▼ こども東北学 山内 明美  
 児童書 つたえよう言葉と気もち 斉藤洋とキッズ生活探検団  
 新幹線、特急1000 学研教育出版  
 Mr.マリックのかんたん超魔術 Mr.マリック  
 1円くんと五円じい かいぞく三人ぐみ、あらわる！ 久住 昌之

## 《おすすめ新着本》

『家庭のおかずのカロリーガイド改訂版』

香川 芳子 監修  
 女子栄養大学出版部



普通の家庭料理約600品の成分値を表示した本。メニューのレシピもあるので調理の参考にしてください。

『メイはなんにもこわくない』

きむら ゆういち/作  
 あべ 弘士/絵  
 講談社



怖いもの知らずのメイは、迷子になっても平気な顔。「あらしのよるに」の主人公ヤギのメイが小さかったころのお話。

## 《2月のイベント情報》

### ■おはなし会スペシャル

2月12日(日) 午前10時30分～11時30分 中央図書館  
 影絵 ほか

### ■おはなし会

2月19日(日) 午前11時～11時30分 江釣子図書館

### ■こども映画会

2月25日(土) 午前10時30分～11時30分 中央図書館

## 珈琲ブレイク ①



### スキーと蕎麦と温泉と

大好きな山に登らなくなったのは十数年前。以来、仕事とNPO活動に明け暮れてきたような気がする。

登山の楽しみの一つに珈琲ブレイクがある。山でいただく珈琲は最高である。そして、そのちょっとした時間に見える景色、登ってきた道、これから歩く道のことを考えることも良い。

それは市政にも言えるかもしれない。時々立ち止まりながら進むべき道を誤らないように考えることも大切だ。今回からの連載「珈琲ブレイク」では、その時々私にふと考えた事や行動したことをお伝えしたい。ぜひご覧いただきたい。

さて、登山と同様に、スキーもここ十数年行っていなかった。先般、北上スキーをこ

よなく愛する会の三浦会長さんから、北上市は夏油高原スキー場のオーナーだから、オーナーがスキーに行かないようではだめだ、とお叱りを受けた。考えてみれば、なるほどなと思い、カミさんを誘ってスキー場へ行ってみた。なんとかスキー靴の履き方やリフトの乗り方は覚えていた。恐る恐る滑り出したら、なんとびっくり、結構滑れるものだ。調子に乗ってけががでもすれば皆さんに何を言われるか分からないので、その日は三本でやめて帰った。

翌週、今年2回目の夏油へ。何本か滑った後で温泉に入り、おいしい蕎麦をいただいた。こんなゆったりとした楽しみ方もいいものだ。ちょっとでもスキーの経験があれば、年齢に応じたいろいろな楽しみ方があると思う。ぜひ、夏油に来てスキーや温泉を楽しんでいただきたい。

この日は、東日本大震災の大津波で被災した気仙沼市から、多くの子どもたちが招待されていた。ほんのひとときでも楽しい時間を過ごしてくれたのであれば幸いである。